

案因緣主善男子辭如坏器則易破壞衆主吏  
卒亦復如是既喪卒已是衆苦器辭如大樹華  
葉繁茂衆鳥能壞如垂乾草小火能燒衆主吏  
卒為苦於壞亦復如是善男子智者若能觀苦  
八種如聖行中當知是人能斷衆苦善男子智  
者深觀是八苦已次觀苦因者即麥天明是麥  
天明有二種一者未來二者未來財未來財二  
俱是苦是故當知麥天明者即是苦因善男子

# 「落ち穂拾い記」④

## 敦煌写経 ②

図版①



図版①部分



図版②

中国との国交回復が成立し、日中の人の往来が可能になるにともない、中国の方も仕事として来日される方が次第に多くなった。80年代中頃であろうか、中国の新刊書籍を扱う馴染みのT書店の社長から面白い物があるとの電話を受け出向いた。近代中國の画家の作品と西域の写経や残紙類を見せられた。数件の写経類には、目を奪われた。楷書以前の書風を示す写経の断簡類で最も美しいと感心した。その前に、コピーをとり自分用の資料とした。(後にこの70余りの残巻は、「国語」という書物の一部であり、裏面には六朝期の暦に関する記述があることになり、その前に、コピーをとりこの一連の数件の写経残紙類は、その後、青山杉雨先生に譲られたと。すぐに西川寧先生がこれらの資料に相当興味を示され、しばらく熱心に研究されたことを後日談としてT社長から聞いた。青山杉雨先生没後、これらの資料は、敦煌研究院に寄贈され、2008年に謙慎書道会開催の『日中書法の伝承』展に陳列された。この写経残紙資料にあれこれ携わり、T社長の手元を離れるときに、北涼写経の断簡の一部8行分を頂いた(右頁・主国版)。小さな140字ほどの写経であるが、十数倍に拡大してもその美事な筆の抑揚は変わらない。今はこれを宋版経の紙背紙を用いて、小品の軸装に仕立て楽しんでいる(図版②)。表紙には、「繁」字を拡大して示した。

伊藤滋(書翰名・木鶴室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2024)



第75回記念書道芸術院展「龍跳虎臥」

渡辺柱雲 書

### 「漢字と金文と…」

4歳から書道教室に通い始め、小学校5年生の4月から種谷扇舟先生・萬城先生に指導して頂いている。気付けば筆を持ってから半世紀。

その5年生の白扇展で、人生初の拓本を見た。恐らく強烈な印象が残ったのだろう、その後の漢字テストで「将」を旧字体の「將」で書いて×をもらった。拓本にあった「將」の字は旧字体であつたため、それを覚えてしまっていたのだ。漢字の字形は変化してゆくものと認識した瞬間であった。

その後、大学受験の勉強をしていた時である。当時飯田橋の日中友好会館の中についた中華書店で、私にとって衝撃的な本に出会った。白川静先生の『甲骨文の世界』と『金文の世界』である。漢字の成り立ちが、甲骨文や金文の文字の世界では手に取るようになる。古文字に魅了されるきっかけであった。その後、大学に合格した時に「書道を専門で学ぶならこんな本が必要だらう。」と従兄がプレゼントしてくれたのが、なんと白川先生の『字統』であった。私の宝物の一冊である。

その後の教員生活でも漢字に関わるエピソードがある。国語の授業でのこと。中島敦の



渡  
辺  
柱  
雲

『山月記』の中で、たった1字だけ他と違う「おもう」の漢字が使われている。虎になつた主人公の李徵が、人間としての自分と決別する時に使われている「懐(おもう)」である。

この字は死者に涙を注ぐ意で、金文で書くと目から涙がこぼれていく形になる。作者の中島敦はこのたつた一文字の漢字で、李徵の感情を明確に表現したのだ。金文を勉強していたからこそ、生徒にその凄さを伝えることができた。私は芸術院展以外の展覧会は、現代詩を書いて出品している。扇舟先生の薦めである。古文字と出会い漢字の面白さを知り、漢字作品を出品する道を残してくれた先生に感謝している。

教員生活を経て、現在、私は毎日書道会の事務局に勤務し、主に毎日書道図書館の担当をしている。図書館で仕事をすればするほど今まで見たことがない古典が未だに有ることに愕然とさせられる。そんな未知だった古典を、戦後の書道会を牽引されてきた先生方は臨書解説を残している。今ほど娯楽の無い時代であったにせよ、その書に対する情熱は凄いとか言いようがない。不勉強を猛省させられている日々である。特に仮名が苦手で、必要最低限の勉強のみで避けてきてしまう。審査会員になつた人でも競書が出せるようになつた今、「今こそ勉強する時だ!!」と自分を鼓舞する日々である。

## 新年おめでとうございます

令和6年辰の年となりました。

コロナも終息に近くなり、日常が戻つて来ましたが、

外国からの観光客で賑わう全国各地の光景には戸惑うばかりの昨今です。

昨年は、ウクライナに続きイスラエルとハマスなど、過酷な国際情勢に衝撃を受けましたが、大谷翔平選手や藤井聰太八冠などの若い人のめざましい活躍と発展には心が躍りました。

書道界では、毎日書道展が本年、記念の75回展を迎えることになりました。それに伴い、特別展示や記念巡回展も全国5会場で開催されます。本院同様、少子化や書道離れに高齢化などで様々な問題を抱えてはいますが、私たち書に携わる者は、少しでも書の魅力を発信し続けて、たくさんの人々に見ていただき、振興を図るべく努めなければなりません。

書は素晴らしい世界です。それぞれが自分の書に行きつくまでは長い時間がかかりますが、それだけの時間を持つだけの価値があるものと信じています。

本年、全国学生展は75回記念展となりました。本院には学生展から育つて来た現在の役員もたくさんいます。本展同様、学生展をご協力ご支援をよろしくお願ひします。

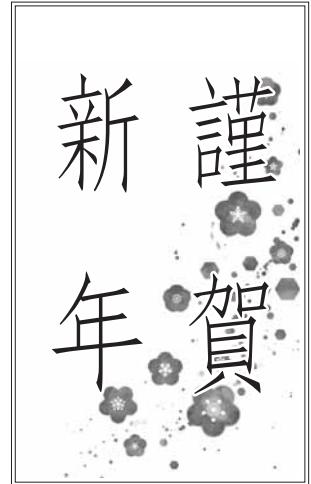
辰年は躍動の年とも言われますが、落ち着いて書に打ち込める世の中であつてほしいと思っています。今年も、書道芸術院は役員一同、誠意をもつて努力、精進して進みます。

皆さま方の、一層のご協力を願いし、新年のごあいさつといたします。

令和6年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

下谷洋子  
役員一同



# 書のひろば

理事長 下谷洋子

明けましておめでとうございます

令和6年辰の年となりました。

新しい年が、皆様にとりまして平穏な幸多い日々でありますことを祈ります。本年もよろしくお願ひいたします。

## 第77回書道芸術院展 一般公募・無鑑査作品搬入・審査終了

11月27日に搬入された書道芸術院展

一般公募・無鑑査の作品は、12月9・10日、浅草橋の文具共和国会館で鑑別・審査が行われました。

昨年に引き続き前日の8日に、出品点数の多い漢字部と現代詩文書部は、一般公募・無鑑査の主任・副主任と審査部の正副部長に集まっていたとき、今回展の審査方針等の説明や打ち合わせをしました。

全体に出品数が減少傾向にあるため、9日の夕方には各部とも鑑別・審査は終了し、翌日漢字部・現代詩文書部のみ残務整理にあたりました。結果は既に発表し、一般公募入選以上の作品と無鑑査作品は表装の上、1月27日に東京都美術館に搬入されます。

・会期 2月6日～11日

・会場 東京都美術館

・表彰式 2月10日15時受付

浅草橋ヒューリックホール  
(他研究会等は要項確認)



院展審査主任打合せ

## 院理事監事・評議員作品互評会開催

理事監事は一昨年から、評議員は昨

年から始めた2月の芸術院展にむけた互評会を今年も12月13・14日に行いました。財団役員としての責任もあり、他部門への理解と作品の質向上のための研究会です。

役員といえども、作家同士、それぞ

れの迷いや悩みがあるのは当然、率直に意見がかわされる自由な気風こそ、

本院の発展につながることだと思います。

完成度の高い作品を持参する方、草

稿を何枚も抱えて来る方、様々ですが、

新たな心境が窺える作品などもあり、

役員の書の力が發揮されて、2月の本

展がより活性化されることを楽しみにして下さい。



一般無鑑査審査風景



評議員互評会

## 第75回毎日書道展主要人事・昇格 人事決定

12月15日、財団法人毎日書道会定例理事会が行われました。

主な議案

・第75回毎日書道展公募出品料改定  
(毎日書道展出品団体に通知する)

従来の14,000円→15,000円に改定する

・第75回毎日書道展的主要役員

人事決定

実行委員長 室井玄聰

審査部長 薄田東仙

総務部長 渡辺美明

陳列部長 大森哲

運営委員(本院関係)

大字書部 川島舟錦  
前衛書部 北村白流

各展実行各委員長(本院関係)

四国展 川島舟錦  
東北仙台展 飯沼恵鳳

・第75回毎日書道展での資格昇格の承認(規定他 本院関係)

審査会員へ

漢字部 児玉韶光  
近藤文書部 菊池富美子

大字書部 朝倉希代子  
刻字部 大沼樵峰

会員へ

漢字部 引田恵華  
大字書部 高橋梭扇・前浜裕香

近藤文書部 上野千琇  
前衛書部 名取雅子・廣瀬幸枝

## 高野山書道協会理事会開催 第58回展主要人事決定

12月3日、東京別院にて、理事会が開催され58回展の概要が決まりました。

・第58回展審査委員長 北野摸山

・運営副委員長 種谷萬城  
・運営委員 下谷洋子

(本院関係)

・出品締切 5月15日  
・2次審査 5月30～31日

・最終審査 6月1日

・表彰式 8月2日  
・展示会 8月1～15日

8月23～25日(東京別院)  
(総本山金剛峯寺)

## 現代詩文書基礎基本講座(44)

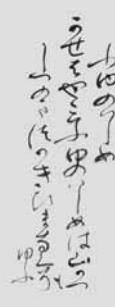
### 小竹石雲

## 前衛書基礎基本講座(20)

### 千葉蒼玄

#### ◆一宮紀伊集

##### ①拡大臨書



「ふゆの八しめ 可せ者や三ふゆ  
の八しめは山可つもしつの万徒可  
きひま奈くそゆぶ」

…風はやみ冬の初めは山賊も賊の  
松垣隙なくぞ結ぶ

##### ②一宮紀伊集風の現代詩文書

夏籠

月

村上鬼城句

〔夏籠や月ひそやかに山の上〕

- ▽特徴
  - ・歌一首を3行書きにしている。
  - ・行間は狭く、扁平な字形で書かれている。
  - ・墨量は多めで、潤渴の変化はあまりない。
- ▽臨書にあたって
  - ・平安古筆とは趣を異にした、力強く豊かな線条表現に、筆はやや短鋒の禿筆を使用した。
  - ・太い線でも軽快に感じられる。そのため健康的な生彩感が乏しくならないよう少し速めに書いた。

## 基礎基本講座

## 藤原定家(1162~1241)鎌倉時代

代々歌人を輩出する名家の生まれで、「古今和歌集」や「土佐日記」、「更級日記」ほか多数の古典を書写した。文字を正しく書くことに主眼をおいた定家の書は、紙面に対して文字が扁平で大きく、線の肥瘦の変化が激しい個性的な書である。

##### 【一宮紀伊集】

##### ▽特徴

- ・歌一首を3行書きにしている。
- ・行間は狭く、扁平な字形で書かれている。
- ・墨量は多めで、潤渴の変化はあまりない。

- ▽臨書にあたって
  - ・平安古筆とは趣を異にした、力強く豊かな線条表現に、筆はやや短鋒の禿筆を使用した。
  - ・太い線でも軽快に感じられる。そのため健康的な生彩感が乏しくならないよう少し速めに書いた。

甲骨文字の発見(1899年)は、書道史上重要な出来事で、前衛書道に大きな影響を与えた。また期を同じくしての木簡の発見は、近代詩文書を発展させ、現代書の道を大きく開いて行く。

中島邑水先生は、書の前衛表現に取り組んだ先駆者の一人で、書の線質に特にこだわりを持った作家だ。

ひつじ年に発表された左の作品は、甲骨文字からインスピアイを受けたもので、羊の造形が直感的に感じられ、文字の持つ美しさや力強さを重視した作品と言える。甲骨文字は本来、その文字の意味を抽象化したものであるが、絵画的な要素を多く含んでいる。この作品では甲骨文字の造形でながら、深くえぐるような篆書の用筆で表現している。

——基礎基本講座——



羊による



蜀素帖（宋・米芾）①

※落款を必ず入れる。署名、も  
しくは○○臨(押印のみも可)



青松勁挺姿。凌霄耻／屈盤。種々出枝葉。牽／連上松端。秋花起絳烟。

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

(A・大作の部 每日晨審会員・會員サブ以内 2×6尺・金紙も可)  
(B・小品の部 半切以上半切以内金紙以内可 (A・B兼備自由))

当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉宋の四大家といえば、蘇軾、黄庭堅、蔡襄（蔡京）を指すという説もある）、米芾であるが、米芾だけが科挙に合格しなかった。そのため、エリート官僚ばかりの士大夫社会で認められるには抜きん出た技量が必要であり、彼にとってそれは書の実力であった。蘇軾や黄庭堅が顔真卿などを尊んで個性を發揮していくのに対し、米芾は古い晋唐の名跡（とりわけ王羲之の書）を徹底的に学び、鑑識眼と技術を高めた。

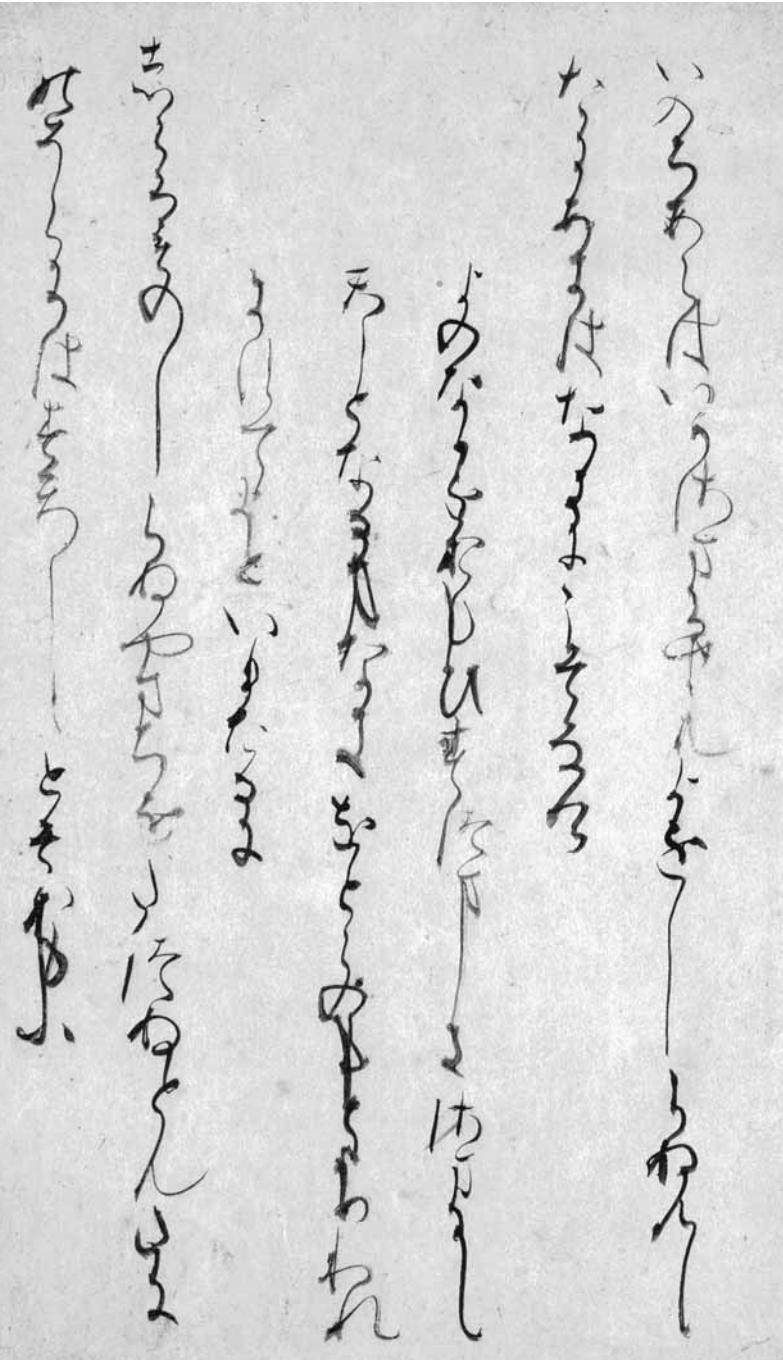
蜀素帖は蜀素（蜀で織られた絹）に書かれた自作の詩巻で、米芾38歳の時の書。荒い網地に対し、いささかの気負いと慎重さでもって書いたタテ長の行書作品である。王献之の雰囲気でまとまっており、線は澄みきって美しい。今月は8首の詩の中から、冒頭の「擬古」の3行目までを掲出した。

(編集部)  
(掲載図版原寸)

和泉式部続集切  
(云藤原行成筆)

①

〈解説〉  
「源氏物語」の作者紫式部は、一条天皇の中宮となつた彰子(藤原道長の長女)に仕え  
たが、同僚の一人に和泉式部がいた。女流歌人として有名な和泉式部の家集には正集・  
続集・宸翰本など複数の伝本系統があるが、古筆切として尊重されたのは続集である。  
その書風は二つに分かれ、第一種・第二種、あるいは甲類・乙類などの名称で区別して  
いる。今月は第一種(甲類)を掲出した。強くグイグイとリズムよく運筆したい。(編集部)



(逸翁美術館蔵)

※掲載図版・90%に縮小

(P44に見やすい図版があります)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

## かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズ  
に切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

## 特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可  
B. 小品の部=半切½以上、半切以内(縦横自由)、全紙½以内も可  
<いずれも上記の掲載以外も可。>

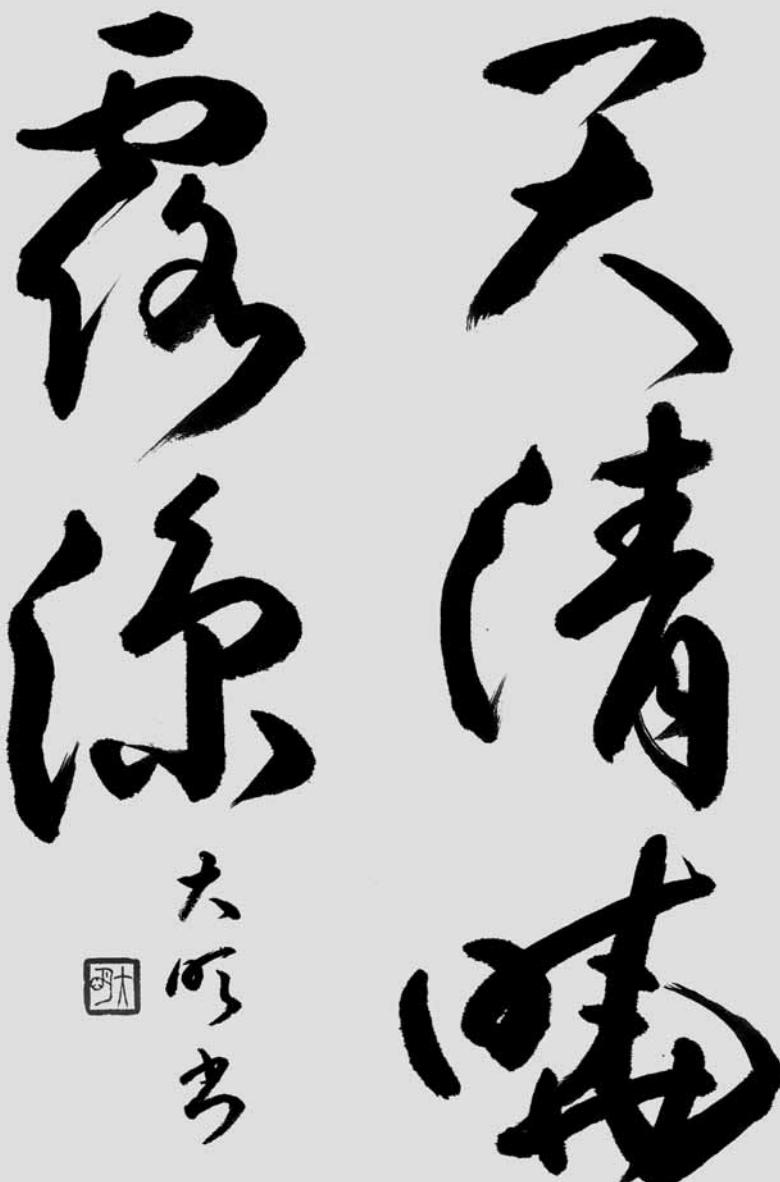
小浜大明

天清曉露涼  
(天清く曉露涼し)  
(薩都刺)

天はすみわたり、曉の露は涼しげである。

今回は行草作品です。

澄み切った空の情景を表現すべく、細めの線で表現し、余白を広くとり、明るい作品になることを念頭に置いて書いてみました。生きた「書」を書くために必要なのは、点画から点画へも当然ですが、文字から文字への筆脈を切らないように書くことが大切です。



天清 晓露涼 よみ (天清く 晓露涼し)

書体=自由

西川翠嵐

風清弊絶

(周敦頤)

風清く、禍いは絶える。



風清弊絶

よみ(風清弊絶)

〈注〉「弊・絶」は書写体です。ご確認下さい。

書体=楷書

さて、新しい年となりました。  
今回の4文字は北宋の儒学者周敦  
頤の「風清弊絶」という言葉を選  
びました。本来の意は古い風習を  
すべて弊害のない世に、というこ  
となのですが、清らかな風が吹い  
て災いがなくなってくれることを  
願って選文してみました。

今号は「楷法の極則」と言われる初唐の欧阳詢の「九成宮醴泉銘」に倣って筆をとりました。字形は縦長、背勢といわれ、楷書で特に大切な「間架結構法」がしっかりと守られています。と述べることは簡単ですが、皆さんにはまず原本を手にとられて解説を読みこみ、その特徴を知り臨書をくり返し、そこで得られた手応えを創作に生かしてほしいと思います。点画は直線的ではありますが、その中に込められている豊かな筆意を知ることが大切です。

西川翠嵐  
(周敦頤)

習い方解説 (1)

石井明子

あづさゆみ 春になりなば草の庵を  
とく出てきませあひたきものを  
(良寛)

「春になつたら、あなたは早く草  
庵から出て訪ねていらっしゃい、  
会いたく思うから」の意。

あづさゆみ  
春になりなば草の庵を  
とく出てきませあひたきもの  
を

あづさゆみ  
春になりなば草の庵を  
とく出てきませあひたきもの  
を

よみ方 あづさゆみ春に(二)な(那)りな(奈)ば(盤)草(久佐)の(乃)庵を  
と(登)く(久)出(て)て(ハ)きま(万)せ(勢)あ(会)ひた(多)き(支)ものを(越)

創作

〈注〉墨縁ぎは「会」です。

\* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

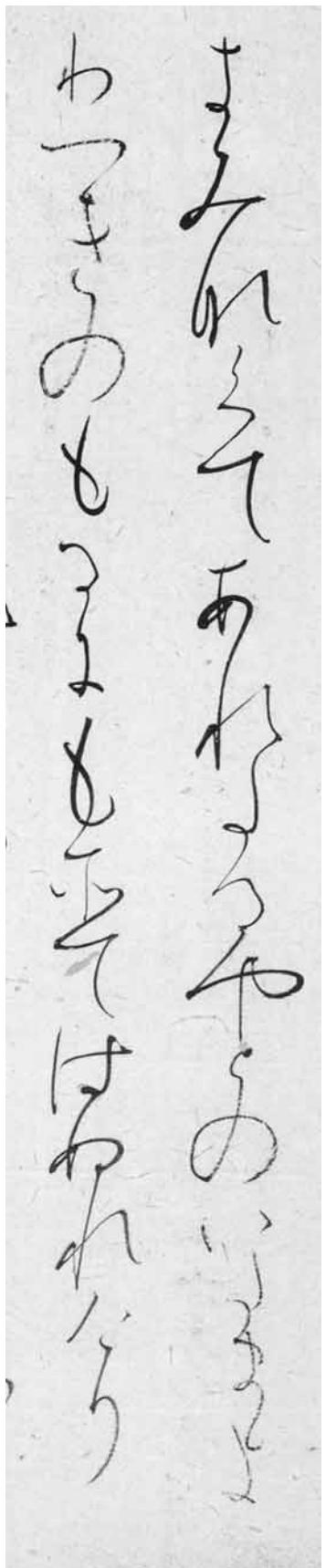
半紙、半懐紙サイズに制作するか。  
な。はインパクトが強くなりやすいの  
で、私は美しく優しい雰囲気を大事  
にしてきました。そのために紙面に  
極端に目立つ箇所がないよう心がけ  
ています。墨色墨量が過多にならない  
こと。字数によって差はあります  
が、字粒は过大過小にならないこと。  
行の長さが類似しないこと等々です。

長年の自分の癖で毎回似通った構  
成に陥り易いのでそこからは抜け出  
したいと願っています。けれど、あ  
のパターンはあの人だと思われるこ  
とも許容してよいとも考えます。一  
人の人間が考えることは無限ではあ  
りえません。

かな規定 秀級以下【2月15日締めきり】用紙 半紙タテ $1\frac{1}{2}$ (料紙可)(たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真拡大120%)  
掲載写真的和歌を臨書する。部分臨書も可。  
〈注〉署名は「〇〇監」として下さい。

粘葉本和漢朗詠集



よみ方  
支那久  
きみなくであれたら  
利多  
りつきのものるにもそ  
所れけり

歌意  
あなたがいなくなつて荒れはてた家の板間から月光がさし込んでくるのを見ると、悲しみ  
の涙が流れてしまします。

### 習い方解説 (1)

かな条幅規定【2月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

勝山初美選書

鳥の音ものどけき山の朝明けに  
かすみいろは春めきにけり  
(京極為兼)

明け方の、のどかな山の様子を表現した春の歌です。

構成は基本の2行書きで、末尾に「けり」を添えました。「色」で墨絵をしています。

連綿は2文字～3文字で押さえました。他の箇所は気脈を意識し、気持ちのつながりを持ちながら運筆すると流れが生まれます。2行目の渴筆部分は春の景色に合わせてリズミカルな動きを心がけましょう。

よみ方 鳥の音も(毛)の(能)ど(登)け(希)き(幾)山(や万)の(能)朝明け(遣)に(耳)

霞の色は(八)春め(兔)きに(一)けり(里)

\*タテ形式に限る

創作



鳥の音も(毛)の(能)ど(登)け(希)き(幾)山(や万)の(能)朝明け(遣)に(耳)

霞の色は(八)春め(兔)きに(一)けり(里)

漢字条幅規定 初段以上 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

### 習い方解説 (4)

名 越 蒼 竹

清朝は金石学が発展し、碑学派と呼ばれる書人を多く生み出しました。多くは篆・隸・楷書の作品が残されていますが、何紹基は隸書の書法と顔法を融合させて、独特の行草書を生み出しました。一見華やかに見える点画も、顔法による線の深みがなければ軽重浮薄に陥ります。長峰羊毛で鋒先のバネをよく利かせるとよいでしょう。



書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯沼恵鳳選書

### 習い方解説 (4)

飯 沼 恵 鳳

今日は、隸意を帯びた木簡調で書いてみました。

大意は、「遠方まで続く積雪を白く輝かせながら、冬の光がちらを照らしています」です。

木簡調ですので楽しく、身体を右に左に動かしながら、自由にリズムに乗って運筆しましょう。文字の大小や線の細太の変化等も心掛けて運筆すると、メリハリがつき、より良い作品に仕上がるでしょう。



書体=自由

萬里寒光生積雪  
(万里の寒光積雪に生ず)  
(祖詠)

萬里寒光生積雪

(万里の寒光積雪に生ず)

(祖詠)

## 習い方解説(4)

倉林紅瑠

月の沙漠をけらばらと  
旅の駱駝がゆきますたに

金と銀との鞍おいて

二つならんでゆきますと

「月の沙漠」より 紅瑠書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさに迷ひが見られます。  
用紙サイズ(ハガキ大14.8×10.5cm)を守って下さい。」

〈注〉「沙」のくんは「石くん」ではなく「せんすい」です

書体=自由	
月の沙漠を	はるばると
旅の駱駝が	ゆきました
金と銀との	鞍おいて

二つならんで ゆきました  
「月の沙漠」より ○○書

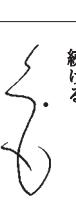
童謡「月の沙漠」は加藤まさを作詞、佐々木すぐる作曲により、大正12年(1923)に発表されました。異国情緒漂う歌詞と叙情あふれるメロディーが印象的です。加藤まさをが、結核療養のために滞在した千葉県御宿町の海岸の砂丘でこの歌が誕生しました。

◇「平がな」の基本一連綿②—  
連綿には意連と形連があります。連綿線でつながっている形連には、さまざまな連綿方法があります。

①基本連綿中心に書く



②終筆からすぐ始筆に  
続ける



③結びからの続け方



④左回りから右折へ  
続ける



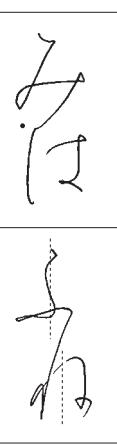
⑤終筆と始筆を重ねる



⑥点から右折へ  
続ける



\*連綿線の長くなる場合の続け方  
⑦ふしをつけて続ける  
⑧中心移動



# 餅つき大会のお知らせ

日時 一月五日(金)十時より

場所 町内会館一階集会室

できあがったお餅は皆で食べます。

参加費は無料ですので、お気軽に

お越しください。

文責 大平 邑峰

餅つき大会のお知らせ／日時 一月五日(金)十時より／場所 町内会館一階集会室／できあがったお餅は皆で食べます。／参加費は無料ですので、お気軽に  
に／お越しください。／文責 氏名

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

# 今月のホープ作品。各部総評

NO.751

かな部 師範 七五三木和美

動きに一切無駄がなく洗練の極致である。かな美を知りつくした

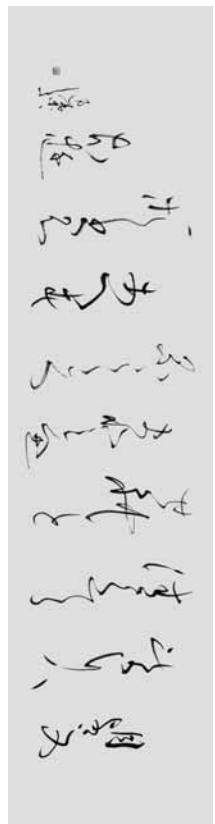
知性に叙情性が加わり美事です。  
◎かな部総評 字が過小の人が散見しやゝ残念。枚数をこなすと自然に解消します。書きこんで何かをつかみとりましょう。(明子評)



漢字条幅部 師範 田中 岳舟

他にないしなやかなリズムに惹かれた。少々あやしい字があるが、この調子に逆筆や強さを加えたい。

◎漢字条幅部総評 変体がなの認識不足が目につけた。横形式は行間の扱いが難しいが、空き過ぎも作品が貧弱になります。(洋子評)



かな条幅部 準師範 関口 芳枝

字が過小の人が散見しやゝ残念。枚数をこなすと自然に解消します。書きこんで何かをつかみとりましょう。(明子評)



漢字部 師範 藤井 龍仙

はやる心をセーブしながらも線の方向性と強弱を駆使し、生彩感漲る作品に仕上げた手腕はさすがに優秀作あり。行草は線の練度とリズム、造形感覚が一体となる研究が大切。多書が大事。(石雲評)



現代詩文書部 特選 笹木 蒼風  
潤渴・疎密のバランス絶妙。余白も響き合い、生き生きとした空間を創り出した。

◎現代詩文書部総評 詩文書は簡単そうですがなかなか大変です。作品集はか書籍での学習必須。

前衛書部 特選 大町 葉園  
墨色、滲み、表現、明るく心が癪やされる作品に仕上がり、好感が持てます。

◎前衛書部総評 心静かに、時には荒々しく、作品創作に向かい合って下さい。

(仙岳評)



ペン字部 師範 中原 純子

柔軟な筆致が紙面全体に漂い、穏やかな雰囲気を醸す。漢字とかなの均整がとれた調和が大変美しい。  
◎ペン字部総評 「鳴」に誤字多く、残念。極度の文字の大小や無理な連綿は不自然さを感じる。ペン選びも重要な要素です。(雪枝評)



庭の千草 もわのねむ  
かれでさびしくすむにけり  
ああしらざく鳴呼白菊  
ひとりおくれてそちにけり  
「庭の千草」より 純子書(誠)

## 实用書優秀作品

選評 岩垣若翠

◎ 実用書部総評

実用という制限がある中で、様々な個性のある書風が見られ楽しく拝見しました。美しく見せるには文字の大きさや行の中心を揃えることが基本となります。

**手本にしたいほど格調が高い作。**  
**形狀美しく伸びやかな線質が魅力。**

寿御歳暮祝御入学お年賀  
お見舞お車代御香典金参方由也  
お見舞お車代御香典金參方由也

**特選** 本郷谷恵  
重厚な筆致で表現するも線にメリハリ効かせ見応え充分な作。

寿 御歳暮 祝御入学 お年賀  
壽 湾歲暮 祝御入学 お年賀  
お見舞 お車代 御香典 金多田也  
お見舞 お車代 御香典 金多田也

## 前衛書部(特選)

## 現代詩文書部(特選)





大作の部

前衛書 (月華)  
中 塩 朱 華  
「朝焼け」



中塩朱華書

◆宿墨による滲みと瞬発する飛沫が大きなりズムを生み出している。躍動感と美しい墨色の調和がすばらしい。(紅瑠評)

潤渴を鮮明にすること  
で奥行きある表現となつ  
た。線質に味が欲しい。

素雪 坂本芳博  
澄春 新行内芳蘭  
紅瑠 金井みどり  
「かな」

◆線質、字形とも原本を詳細に鑑賞した形臨。長時間に亘る集中力の継続は見事。作品全体の構成も見事で完成度が高い。

### 部分扩大

王者刑殺當罪賞  
聖人之德上及太  
者純和飲食不貢  
元元年醴泉出京

現代詩文書 (玄穹)  
尾形紅霞  
「宮澤賢治のうた」



尾形紅霞書

◆縦2行の構成、通貫

性があり文字も書きへう。大小の変化と墨の潤渴を鮮明にすることでお運びある表現となつた。泉質こ味が次へ

180×60cm  
「前衛」

王者刑殺當罪賞錫當功得禮之宜則醴泉出於閭庭鶴冠子曰聖人之德上及太清下及太寧中及萬靈則醴泉出瑞應圖曰王者純和飲食不貢獻則醴泉出飲之令人壽東觀漢記曰光武中元元年醴泉出京師飲之者痼疾皆愈然則神物之來應扶明聖既可歸曷況沉延彼退齡也抑神物相逐劫我固懷搃推而弗有雖休勿休不徒聞於往昔以祥為懼寶取驗於當今斯又上帝玄符天子令德臣之未學所能丕顯但職在記言屬茲書事不可使國之盛美有遺典榮啟陳實錄爰勒斯銘其詞曰惟皇撫運奄壹寰宇千載肅期萬物斯覩功高大脊勤深伯禹絕後光前登三邁五擢槐炬始乃聖乃神武克禡亂文懷達人書輯未紀開闢不臣冠冕並韞簪督成陳大道無名上德不德玄功潛運獎深莫測鑿井而飲耕田而食靡謝天執子詛

135×70cm

◆線質、字形、章法が着実で、観察力が細部にまで行き届いた臨。集中力の継続、精神力の強さに敬意を表します。  
(萬城  
王者刑殺當罪賞錫當功得禮之宜則醴泉出於闕庭鶴冠子曰聖人之德上及太清下及太寧及萬靈則醴泉出瑞應圖曰王者純和飲食不貢獻則醴泉出飲之令人東觀漢記曰光武中元元年醴泉出京師飲之者痼皆愈然則神物之來寔扶明聖既可蠲茲沉痼

〈特選候補者〉  
〔創作の部〕

總出品點數  
36 点

臨書の部(12点)

## 創作の部(24点)

漢字研究部  
(九成宮醴泉銘)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



下 津 舟 楓

則 醴  
泉 出

醴 泉

庭 鶩

宜 則

閑 庭

於 閑 庭

惠智玉美蒼京  
子景泉千風花

王 者  
刑 穢

王 者  
刑 穢

於 閑

則 醴

泉 出

王 者  
刑 穢

寬奎峰亞英勝  
子心子希樹江

王 者  
刑 穢

得 禮

王 者  
刑 穢

冠 子

泉 出

王 者  
刑 穢

美叙俊恭紅  
和孝美亮子雨

王 者  
刑 穢

出 於

於 閑

泉 出

王 者  
刑 穢

王 者  
刑 穢

惠華良惠永  
美真子子璫美

漢字研究部 特選 下 津 舟 楓  
九成宮醴泉銘の結体、用筆等を良く理解し  
た上で書かれた見事な臨書です。全体的に落  
着きと安定感ある秀作ですが、落款が少々細  
く小さいことが気になりました。

◎漢字研究部総評

力作が多数寄せられたことを嬉しく思いま  
す。しかしながら、この古典の大きな特徴で  
ある背勢の字形を理解せず、向勢で書かれた

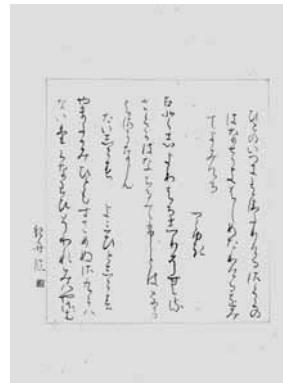
作があつたことは残念です。その他、右上の  
転折を書く時、一旦筆を離して書いている方  
がありました。が、縦画の始まりが大きく上方  
に出ているのは、細い線で書かれた横画から  
縦画に方向転換する際、筆の傾きが変わるので  
と、筆圧が変化したため自然にできた形であ  
ることを理解して下さい。

(大明評)

かな研究部  
(関戸本古今集)

選評 佐 藤 希 雲

今月のホープ作品



八木橋 紀舟

◎かな研究部総評

関戸本にも慣れてきたようで、安心して見られる作品が増えました。さらに古筆の特徴を把握し、自分なりのとらえ方で表現してもらえたから、と田畠さんは喜んでいます。

۱۰	۱۱	۱۲	۱۳
۱۴	۱۵	۱۶	۱۷
۱۸	۱۹	۲۰	۲۱
۲۲	۲۳	۲۴	۲۵
۲۶	۲۷	۲۸	۲۹

篁里理

春惠  
朗華水

美瑞惠  
和華子

真和美  
砂子美悠

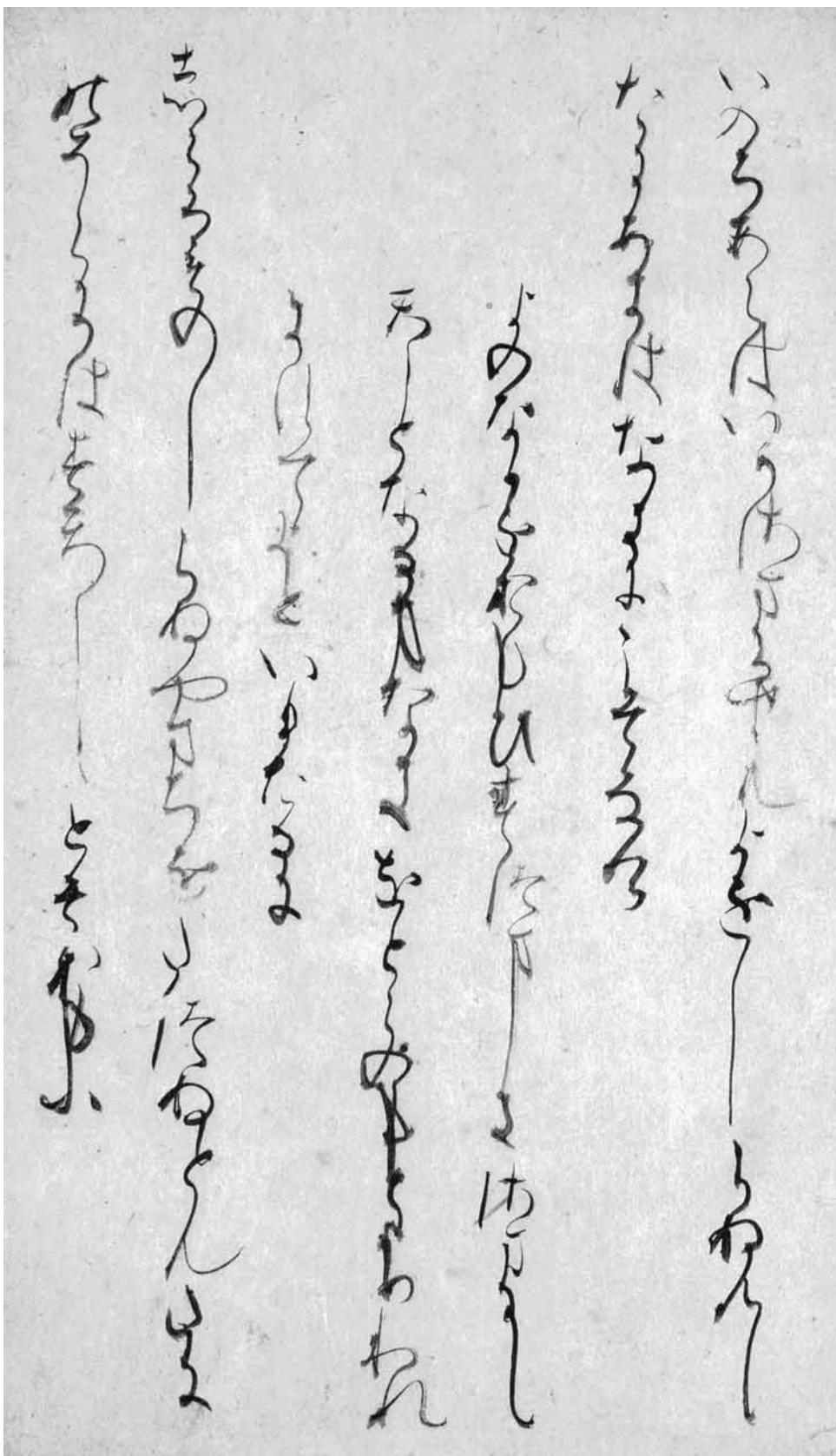
かな研究部成績表

た橋和八塚福紅 か雅平街山瑠秀	高華薺春高こ華澄水大上玉た惹千上澄華こ澄菊椿書塙竹美 井仙湖汀崎だ仙春茎雲泉川か書葉泉春仙だ春月翠泉和○
梅伊井石池藍 津与上渡田崎澤 佳田作(50首)	吉前北上根立山岩清驚中森猿坂猪早字菊北新新安 田川崎利本花口瀬水山村田波本又部田地爪行井 内川シ安五三木木和美紀舟
代玉翠悦和白 子泉二径子美珮	瑛菁啓雅千雪祥蘭美嫁里理春惠美瑞恵美悠舟 か仙湖子紗翠園蘭舟梢子恵右美屬華水和華子
玉松佳	惠蓮高た一声白た上白一A立華高沙紅白紅秀玉光清潮清一大竹薄上書 泉紅鷲か弦香露か泉露心I精仙真莉瑠露露歌川彩月首月阪心雲原湖泉游
青木作(50首)	渡遊矢本村宮松浜萩野錦寺千竹武瀧高春須椎佐境齋小小黑久北叶 邊佐口柳上内村野原口織原田井木原田名藤田野藤林坂柳崎美洋 美久あす百信紅登小智成陽永洋美しさ恵白香一組慶香光綾龍和杏嘉萩素竹登
葵郷	代雅江萬東子子算子子子委華江子子舟子奈自子昆江江子葉子

## 令和6年（公財）書道芸術院 年間行事予定表

月	日	芸術院行事	日	展覧会関係	
		内 容		内 容	場 所
1月	5	仕事始め	4～9	現代の書新春展	セイコーハウス銀座ホール (旧和光ホール)
	27	第77回展審査会員・審査会員候補(作品搬入)	4～9	現代の書新春展100人展	セントラルミュージアム銀座
	28	大賞選考			
	29	春華賞選考			
2月	4	第77回書道芸術院展陳列、評論家の眼、記者会見	16～19	第55回現代女流書100人展	日本橋高島屋
	6～11	第77回書道芸術院展		併催新進作家展	
	6～11	第75回記念全国学生書道展			
3月	10	通常理事会			
4月			9	毎日書道展事務局合同会議	
5月	18	監査・通常理事会（院事務所）	13～14	第75回毎日書道展 会友公募受付搬入	毎日ホール
			24～26	第75回毎日書道展鑑別	国立新美術館
6月	8	定時評議員会			
	22	通常理事会（院事務所）			
	22	第78回書道芸術院展運営委員会、実行委員会	27	第75回毎日書道展対策委員会	国立新美術館
			28～30	第75回毎日書道展審査	国立新美術館
7月	1	学生展要項発送	3	第75回毎日書道展会員賞選考	国立新美術館
			4	第75回毎日書道展大臣賞選考	国立新美術館
			7/10～8/4	第75回毎日書道展	国立新美術館/東京都美術館
	21	第75回毎日書道展書道芸術院祝賀会	21	第75回毎日書道展表彰式/祝賀会	ザ・プリンスパークワー東京
8月	1	秋季展締切			
	8	秋季展下見会			
	10～15	夏季休暇			
	18	単位認定講習会（岡山県）			
	20	秋季展審査			
9月					
10月	7	秋季展陳列			
	8～13	秋季展			
	12	秋季展表彰式、研究会			
	13	秋季展撤回			
	23	第76回全国学生書道展作品搬入			
	10/30～11/4	第76回全国学生書道展審査			
11月					
	23	創立記念日			
		通常理事会10時30分～			
		講演会13時30分～			
	26	第78回書道芸術院展(一般/無鑑査)締切			
12月	7～8	第78回書道芸術院展審査			
	27	仕事納め			

☆P7の「和泉式部続集切（伝藤原行成筆）」の課題を少し拡大（110%）して示しました。ご活用下さい。



予告

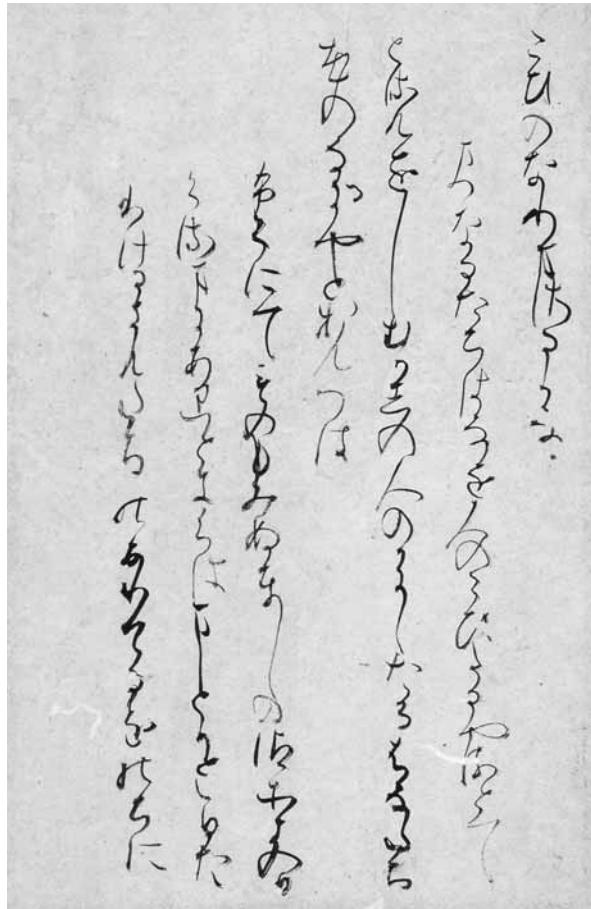
2024・2月号(754)の「古典鑑賞」「古筆鑑賞」の課題

(3月15日締切)

古筆鑑賞

239

和泉式部続集切 (伝 藤原行成筆) ②



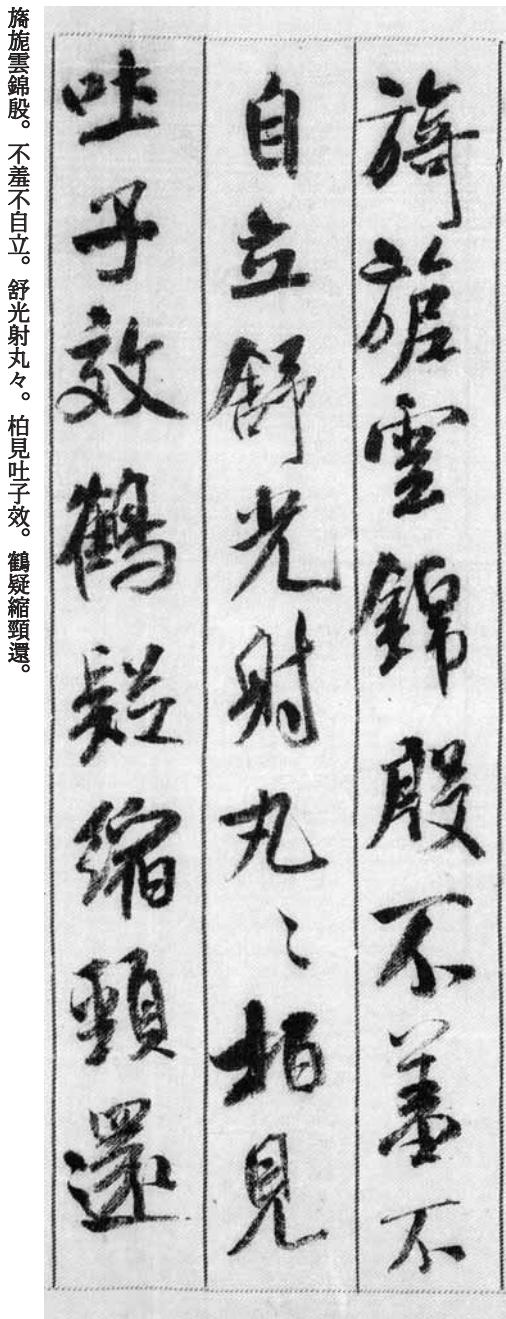
(掲載図版・60%に縮小)

（よみ）  
こひのなりまさるかな／まへなるたち  
ばなを人のこひたるやるとて／とるも  
をしむかしの人のかにゝたるはなたち  
／花のなにやとおもへば／ぶくにても  
のもみぬとしの御そぎの日／くるまに  
ありときくはまことかとゝひた／りけ  
るきんだちのありけるをのちに

古典鑑賞

465

蜀素帖 (宋・米芾) ②



(掲載図版・70%に縮小)

● 篆刻

【2月15日締めきり】

〈出品規定〉

① 篆刻 (ア) 課題による語句

(イ) 原印自由

(出品の際、原印のコピー添付)

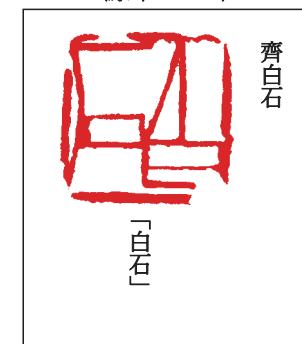
② 創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。

○印鑑は市販のもの、半紙横々の大ささに切ったものも可。

○応募は①か②のどちらかとする。

〈原印コピー〉



用紙の右側に押印し、左側に印影の記入を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

○出品方法

篆刻特選 平塚由香



(篆刻) 特選  
秀作 (60点)  
白塚 平塚 由香

(創作) 特選  
秀作 (60点)  
生大 中昌 義則

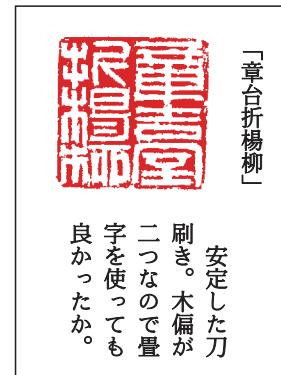
秀作 (60点)	唯一 遂沢 唯一
白塚 平塚 由香	大雲 小沢 华仙
生大 中昌 義則	芳琴 小野寺幸喜
	蒼原 庄司 櫻空

創作特選 中島義則



安定した刀  
刷き。木偏が  
二つなので畳  
字を使っても  
良かつたか。

「章台折楊柳」



○篆刻部総評

創作の部の作品に素晴らしいものがたくさんあり、見ていて楽しかった。一頃でも多く彫って、自分のスタイルの確立を。

(椎峰評)

今月の注目作  
高岡秀汀



選評 大沼樵峰

75号篆刻優秀作品

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は  
101-0031 東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階  
東神田プラザビル3階

郵便番号  
東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

公益財団法人書道芸術院

電話 (03) 3862-1954  
FAX (03) 3862-1957

ご連絡等は  
月曜日～金曜日 10時～16時 の間に  
お願いいたします。(土・日・祝日は休む)

送 料

1か月の購読部数が

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円

10部以上は

送料免除

令和五年十二月二十五日印刷  
令和六年一月一日発行

定価 1部 七五〇円

編集兼任 下谷洋子

データ処理 株式会社リンクス

印 刷 小沢写真印刷株式会社

發行所 公益財團法人書道芸術院

101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階

電話 (03) 3862-1954

FAX (03) 3862-1957

振替 00150-4-1350-0588

ホームページ <http://www.ljms.co.jp/nogai/>